

●漁況情報

- みうら漁協金田湾販売所、松輪販売所によると今年度のひじき漁は昨年に比べて収穫量がやや少なかったものの（松輪地区では前年比8割程度）、単価は前年に比べてやや良かったとのこと。
- 4月下旬、長井、大楠、鎌倉の各浜でヒジキ漁が口開けしました。収穫量は前年並み～若干多く、漁獲したヒジキは選別後釜茹でされ「釜揚げヒジキ」製品に加工されています。釜揚げヒジキは乾物とは違う食感が魅力で、マヨネーズ等で味付けしてサラダ感覚でおいしくいただけます。ワカメやアカモク製品等と合わせて、地元漁師の直売所等で扱っているので、ぜひ、ご賞味下さい。



伝馬船と呼ばれる小型漁船いっぱい収穫されたヒジキ サラダ感覚でおいしい釜揚げヒジキ製品

●浜の話題

- 3月16日、みうら漁協南下浦支所（金田湾地区）所属の定置網漁業者岩野さん（唐池丸）が、アンカータグ（標識）のついたスズキ（約3kg）を再捕しました。ジャパンゲームフィッシュ協会に問い合わせたところ、この個体は今年の1月4日に千葉県の富津岬周辺で放流されたものであることが分かりました。岩野さんの定置網には24日にも標識のついたスズキ（約0.8kg）が入り、こちらの個体は今年2月27日に横須賀市浦賀で放流されたものでした。アンカータグなどの標識がついた魚が漁獲された時は、県水産技術センターが担当地区の普及指導員にご連絡ください。
- 4月に普及員がみうら漁協松輪支所から聞き取った所、松輪地区では昨年度の前半はコロナ感染症の影響で遊漁者は例年に比べて減少しましたが、後半になると遠出を避けて近場でレジャーを楽しむ方が増えたようで、かえって遊漁者は増えたそうです。結果的には昨年度の遊漁者数は過去4年間の平均に比べて約10%増となったようです。
- 4月12日、横須賀市東部漁協 鴨居支所の福本丸さんが3月上旬に種付けしたワカメ種系の検鏡を実施したところ、付着物も少なく、良好な状態であることを確認しました。このワカメは12月にメカブが大きくなり、早ワカメとして出荷することできる品種です。今後、水産技術センターではこのような貴重な品種を普及していくために、フリー配偶体として保存していく予定です。



種付け後1ヶ月が経過した早ワカメの種系

- 4月15日、小田原市漁業協同組合青年部が、ムラサキウニの採捕を行いました。ムラサキウニは、

籠に入れ垂下し、キャベツ等の野菜残渣を与える養殖試験を実施します。この取組みは今年で3年目を迎え、身入りの状況を確認しながら時期を見極め、出荷を行う予定です。



採捕したムラサキウニ



養殖籠に入れたムラサキウニ

- 4月中旬以降、小坪漁協はキャベツウニの生産を始めました。今年は新たにキャベツウニ育成用の水槽を5基製作し、昨年の倍以上の規模で2,000個（今後の予定4000個）のムラサキウニを育成しています。6月末～7月上旬の出荷に向けて育成して行くそうです。



建材ブロックを積み重ねて経費を抑えて作成した育成水槽



- 4月17日、仮オープンしていた「大磯港賑わい交流施設」（愛称：OISO CONNECT）が、グランドオープンしました。地場産の野菜や大磯港で水揚げされた水産物が販売され、多くの観光客で賑わっていました。



大磯港賑わい交流施設



地元漁業者が漁獲した水産物の販売

- 4月20日、平塚市漁協は、アカモク増殖試験を行いました。三浦市の漁業者が収穫した成熟したアカモクを、ブロックを沈めた水槽に入れ、母藻から放出された幼胚（種のようなもの）を付着させました。そして、幼胚が付いたブロックを、無事に平塚漁港東防波堤付近に設置しました。来年にはアカモクが繁茂することが期待されます。



ブロックを沈めた水槽にアカモク母藻を入れている状況

- 5月上旬、みうら漁協金田湾販売所所属の寺下丸 飯嶋さんがテレビ東京の昼めし旅の取材を受けました。定置網の漁獲物の水揚げ風景や地元の魚を食事処で食するところなどを撮影していったそうです。5月26日11時40分からテレビ東京で放映されるとのことです。
- 4月22日、長井町漁協所属漁業者11名が当センターに表敬訪問で訪れました。当日は、当センター所長、栽培推進部部长と磯焼けとトラフグの担当研究員が対応し、漁業者からはウニ駆除等の磯焼け対策や養殖ワカメのアイゴによる食害対策、トラフグ種苗生産や放流場所等に対する要望がありました。今後も、漁業者と当センターで連携を深めて、上記課題に取り組んで行くことになりました。



漁業者から活発な意見・要望がありました

- 4月26日、小坪漁協所属 ヴェルデ丸 座間指導漁業士は、今年度から新たにワカメの種苗生産を始めました。相模湾側では、養殖ワカメの種挿し後、11～12月にアイゴによる食害が酷く、その対策として、ワカメ種苗の補填と種挿し時期を遅らせる試行をするために、種苗生産に取り組み始めました。当日は、小坪の天然ワカメから採苗し種付けしましたが、その他に、長井の大山丸さんや金田の菊丸さんと寺下丸さん（飯嶋青年漁業士）にお世話になり、猿島系や長崎系のワカメ種苗も生産～育成しております。



ワカメ種付の様子と種付したワカメの育成水槽

●お知らせ

- 新たに漁業独立経営を支援する無利子の融資、漁業経営開始資金を活用できる年齢の上限が、漁業労働に従事する者にとっては今年度より40歳未満から50歳未満に引き上げられました。ご利用の希望のある方は、最寄りの普及員にご相談ください。なお、コロナ対策の一環で、今年度も、希望者に対して沿岸漁業改善資金の約定償還の償還猶予措置がございます。ご希望される方は、お早めに、最寄りの漁協を通じて県水産課水産指導グループ045-210-4539にお問合せください。
- 農林水産省にホームページにコロナ対策で「漁業者・漁業者団体等・水産加工業者が活用できる支援策」が取りまとめられております。詳しくは下記URLか、「農林水産省 漁業者・漁業者団体等・水産加工業者が活用できる支援」で検索してご参照下さい。
農林水産省「漁業者・漁業者団体等・水産加工業者が活用できる支援策」ご案内サイト
https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/support.html
https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/pdf/support_gyogyo.pdf
- 5月1日、県水産課および県漁連は、漁業就業希望者を対象とした「かながわ漁業就業促進センター」の今年度の研修生募集を開始しました。研修内容は、漁業就業するために必要な基礎知識等を習得する座学研修や、現役漁業者の下で実際に技術を学ぶ漁業実習の他、漁業に必須な1級小型船舶免許や第3級海上特殊無線免許の取得に係る支援もあるそうです。受講を希望される方は、県水産課のHPで詳細を確認の上、6月25日（金）17時までには県漁連まで申請書類一式を郵送またはメールでお申し込み下さい。
 - ・かながわ漁業就業促進センター案内URL：
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/kanagawagyogyoshugyo.html>
 - ・お問合せ先：（申込先・運営）神奈川県漁業協同組合連合会 指導部 TEL 045-773-8877
メール info@jf-kanagawa.jp
（委託元）神奈川県環境農政局農政部水産課 水産企画グループ TEL 045-210-4542



かながわ漁業就業促進センターの漁業塾 第1期卒業生 柴のアナゴ筒漁や太刀魚曳釣漁を営む漁業者の下で、活躍されています！